

# 「私がよっ！と思えた相談のご紹介」

広島市立広島市民病院 MSW山崎恭子

## ・治療へつながった事例

右肺門部がん 60代 男性（妻と娘の3人暮らし。日給月給の仕事。国民健康保険。妻も乳がん患者。）

### ①初回相談

主訴)抗がん剤でがんを小さくして手術の予定だったが、急に気管支に近いので手術はできないと言われた。自分としては手術を強く希望している。今後抗がん剤治療となれば仕事もできず、高額な抗がん剤治療を続けていくことになる。延命のために高額な治療をするつもりはない。リスクがあっても完治の可能性があるので手術を希望する。手術の可否についてカンファレンスで決定すると言われたが、あくまで手術希望であることを伝えてもらいたい。治らない治療をして仕事もできないというのでは生きる気力がわかない。自殺して楽になりたいとも思う。

## ①がん相談員としての対応

本人の意向に沿って主治医へ口頭で相談に来られたこと、手術希望であることを伝えた。また患者の病状や方針の理解についても記録して報告した。

本人へ医療費については制度を利用して減免できそうなので心配いらないことを説明した。また、「必ず治療の方向性が見えてくるし一緒に考えるので自殺はしないでください」と伝えた。



## ②2回目の相談

主訴)手術できないと決定した。放射線治療と抗がん剤治療の併用を進められた。医師は自分のレールに乗せようとする。もう抗がん剤はしない。予後が短くなっても構わない。治療しないことを先生へも伝えた。

## ②がん相談員としての対応

主治医への不信感が強いこと、治療すべてを拒否しているわけではないことから、放射線治療単独なら治療も考えられるのであれば一度放射線科の先生に話を聞いてみてはどうかと提案。放射線科医師へ連絡し主治医との関係を含む事情を話し受診について了解してもらった。受診について主治医にも相談し了解を得た。

MSWとして感じていたこと  
“生きたい人なのに、自分の望む治療を提示されず、コミュニケーションもうまくいかず「治療しない」という選択になっているな。”



- ・放射線治療を単独ですることになった。
  - その後、放射線科医師とのコミュニケーションが良好で、抗がん剤治療も並行で行った。
- ・治療が始まった翌月から医療費の一部負担金減免の制度が利用でき、3か月の治療期間中、医療費の負担はほとんどなくなった。

### 「私がよしっ！と思えた理由の考察」

患者から、「もしあの時治療をしない選択をしていたら今の自分はいなかった。放射線科の先生へつないでもらったことが良かった。医療費もかからず家族に迷惑をかけずに済んだ」と言って頂いた。

→本人が望む治療へ結びつけることができたのだな。

→MSWとして医療費や生活費の不安についてサポートできたのだな。

と感じた。

